

# ◇ 標準塗装仕様書 ◇

ボンフロン株式会社

◇工法名	BF-A105/ボンフロン水性クリヤーコート工法(劣化度「大」水性GT補修)		
◇適用素地	既存塗膜全面除去		
◇使用材料	下塗	ボンフロン水性ACガードコート	15.0 kg / 缶
	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	15.0 kg / 缶
	色合せ補修用	ボンフロン水性GT(白、黒、オーカー、赤サビ)	各4.0 kg / 缶
	上塗	ボンフロン水性SRラストコートⅡ	13.0 kg / 缶

工程	使用材料	希釈率 (%)	標準所要量 <sup>注1</sup> (kg / m <sup>2</sup> )	塗回数	塗装間隔 (23°C)	施工方法
素地調整	躯体補修 既存塗膜の全面除去、高圧洗浄 ※事前調査については別紙を参照ください。 ※塗装前の素地調整方法は別紙を参照下さい。					
1	下塗	ボンフロン水性ACガードコート	既調合	0.09 ~ 0.12 0.12 ~ 0.16	1	16h以上 刷毛・ローラー エアレス
2	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	既調合	0.10 ~ 0.12 0.12 ~ 0.16	1	4h以上 刷毛・ローラー エアレス
3	色合せ補修用	ボンフロン水性GT (白、黒、オーカー、赤サビを現地にて調色)	清水 0 ~ 20	0.01 ~ 0.02	適宜	4h以上 パッティング
4	上塗	ボンフロン水性SRラストコートⅡ	既調合	0.06 ~ 0.08 0.08 ~ 0.11	1	— 刷毛・ローラー エアレス
合 計					4	

注1) 標準所要量については、『塗装材料(希釈する前)の理論塗付量(kg/m<sup>2</sup>) × 100 / 塗着効率(%)』で算出しております。所要量は被塗物の形状や希釈等の塗装条件などによって増減することがありますのでご注意ください。各種施工方法の塗着効率を下記に示します。

施工方法	塗着効率(%)
刷毛・ローラー	80~100
エアレス	60~80
各種吹付けガン	50~70

エアレス圧力(参考)5~10Mpa・50~100kg/cm<sup>2</sup>

注2) 施工前に必ず事前調査(別紙参照)を行って下さい。

注3) ① ボンフロン水性ACガードコートは素地の吸い込み程度により、塗装回数を調節してください。

素地の吸い込みが多い場合は2回塗装を行ってください。

② 本材料は下地に含浸するのに時間が掛かりますので、塗装間隔は必ず守ってください。

③ 本材料は、アルカリ成分と反応し分離する危険性がありますので下記の点に注意して下さい。

・ローラー施工の場合は、開缶したら当日使い切るように下さい。

・バケツで小分けし使用する場合は、残った材料は缶には戻さず廃棄して下さい。

・使用したローラーは材料に漬け置きしないで下さい。

注4) 内外部で施工可能ですが、内部施工の場合は局所排気などの手段を講じて十分に換気を行ってください。

注5) 本工法は外壁等の垂直面への塗装には問題ありませんが、天端等の水平面は環境が厳しく垂直面に比べ早く劣化します。

注6) シーリングについてはなるべく先打ちをお願いします。

後打ちにする場合、養生テープで塗装面が剥離する危険があるためなるべく接着力の弱いテープでの養生をお願いします。

注7) 気温や湿度等にも拠りますが塗膜が完全乾燥するまでに2~3週間掛かります。

塗膜が完全乾燥するまでは雨水等により水シミが発生する可能性があります。

仕様書に記載の塗布量を厳守して頂き、塗膜が完全乾燥すれば水シミは発生しません。

注8) グレー色以外のカラークリヤーは施工方法に限らず、色差が発生しやすいので十分注意して下さい。

注9) 上塗 艶の種類

	艶有り	7分艶	5分艶	3分艶	艶消し
ボンフロン水性SRラストコートⅡ	○	×	○	×	○

※ 艶有り以外をローラー施工する場合は、光沢ムラが生じる為、避けてください。

※ 艶有り以外をエアレス施工する場合は、一度の所要量を超えると、指定した艶に仕上がらない可能性がありますので所要量を遵守して下さい。

※ 特記 本仕様書と共に下記留意点を必ずご確認ください。  
**塗装工事における留意点<<水性塗料>>**